

通常は展覧会・イベント会場のBankART Studio NYKがクリエイターの制作スタジオとして変身します。全国から集まったアーティストの生きいきとした制作現場を是非お訪ねください。皆様のご来場をお待ちしております。

BankART Artist in Residence

OPEN STUDIO 2017

6.9 Fri - 6.18 Sun 11:00-19:00

BankART Studio NYK

主催: BankART1929

BankART AIR 2017 4月10日[月]～6月20日[火]

- オープンスタジオ: 6月9日[金]～6月18日[日] 11:00-19:00 入場無料
- オープニングパーティ: 6月9日[金] 19:00～ 一般参加費 ¥500
- アーティストトーク@BankART Pub: 4月22日から毎週土曜19:00-20:30

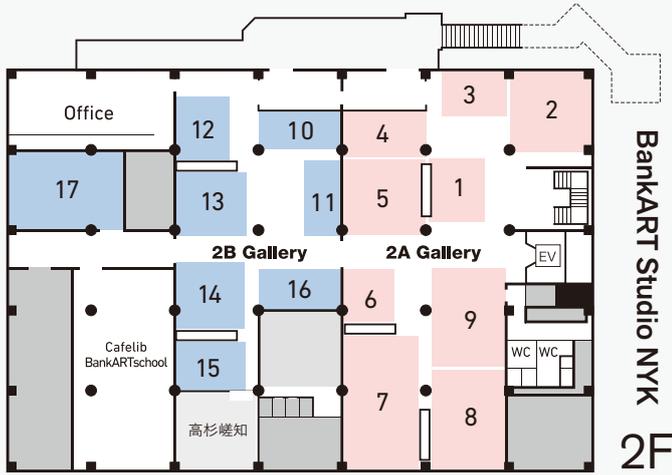
※参加費無料、パブにてドリンクのオーダーをお願いします。

①4/22 ②4/29 ③5/6 ④5/13 ⑤5/20 ⑥5/27 ⑦6/3 ⑧6/10 ⑨6/17

お問い合わせ: BankART1929 TEL: 045-663-2812 studio@bankart1929.com

アクセス: BankART Studio NYK 〒231-0002 横浜市中区海岸通3-9

横浜みなとみらい線「馬車道駅」6出口[赤れんが倉庫口]徒歩5分



2A Gallery

1 栗原麻緒 Mao KURIHARA

レジデンスでは色・人の呼応をテーマに作品制作に取り組む。

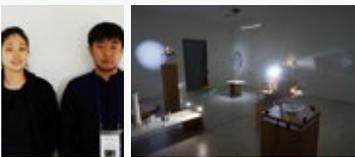
□女子美術大学工芸専攻卒業。羊毛を染め、紡いだ糸と縮絨したフェルトを用いて立体作品やインスタレーションを制作。



2 片岡純也 + 岩竹理恵 Junya KATAOKA and Rie IWATAKE

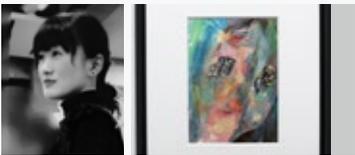
今年BankARTで開催されるUnder35の個展のための制作をする。片岡は、光や音などの具体的な現象を起こす動的メカニズムをもった装置を、岩竹はコラージュや小さなオブジェクトを制作する。

□2013年のパリのでの共同レジデンスを機に、ふたりの作品を組み合わせたインスタレーションを発表している。主なAIRに、2013年パリ市国際芸術都市アトリエ、2014年アイスランド・リーセイ島 old school art house Hrisey、2015年横浜市黄金町、2016-2017年台北国際藝術村。最近の主な発表に、2017年ピョンチャンビエンナーレ(韓国)、Treasure Hill Light Festival(台北)、個展 Latent Constellation(台北)などがある。



3 天草ミオ Mio AMAKUSA

スタジオでは、空間を大きく使った制作をする予定。□武蔵野美術大学大学院修了。ペインティング、ドローイングを軸に、布やぬいぐるみ等を使ったオブジェ、写真、映像を用いる。おもに少女やイヌのような動物を描く。近年は、ガラス絵のように裏面から絵を描き、絵画の仕組みを逆転させた作りをしている。「小さな部屋から社会、歴史、宇宙へつながる」を目指す。



4 窪田久美子 Kumiko KUBOTA

衣服を題材とし衣服と同じ素材を使って彫刻として作品を制作する。衣服の形や機能、社会的な意味を再考し、さらに再構成することにより、新たな造形を試みる。

□神奈川県出身。B-semi schooling system 修了。個展に、「comfortable」(numART/藤沢/2017)、「butterfly」(Launch Pad Gallery/横浜/2016)、「HOLD」(新宿眼科画廊/東京/2010)。グループ展に「BankART Life III」(新・港村/横浜/2011)、「ANTINOMIE」(Gallery Objective Correlative/東京/2003)。その他、1996年灰塚アースワークプロジェクト(広島)にて滞在制作など。



5 廖震平 Zenping LIAO

僕は実際に経験した風景を基にして絵を描きます。絵画の方法による、景物を元の脈絡から引き出して、観者の想像空間を広げたいと試みています。この機会を利用して、今年の個展に向けて準備を進めていきたいです。

□1982年台湾新北市出身。国立台北芸術大学美術創作研究科卒業。2013年に創作拠点を横浜に移転。主な展覧会歴に、「美術3展-喫茶と書籍と共に」(ジャック&豆の木ギャラリー-鎌倉/2017)、「棲息地」個展(科元ギャラリー-台中/2016)、「[Echoes Reveal]」(MA2 Gallery/東京/2016)、「横浜北部美術公募展2015」審査員賞(横浜市民ギャラリー-あざみ野/2015)、「トキョウワンダーウォール公募2015」入選(東京都現代美術館)。



6 桑波田 謙 Ken KUWAHATA

「公共性とは何か」を探るための手法としてコラージュ表現に注目している。コラージュ手法による表現の可能性を探りながら、公共性という概念を生み出す都市のイメージを模索したい。またワークショップを開催し、参加者自身の「まちのイメージ」を集積しながら、個と公の関係について考えたい。

□東京造形大学卒業。株式会社クワハタデザインオフィス主宰。デザイン(芸術)・医学・工学等の学術連携による公共デザインの研究や実践を行っている。日本サインデザイン賞、グッドデザイン賞、医療福祉建築賞、国際ユニバーサルデザインアワード金賞等受賞。BankART AIR2016に参加。



7 onomichi オノミチ

広島県を拠点に活動する4名でスタジオを共有し個々の制作に取り組む。

- 池 菜月 | 尾道市立大学大学院美術研究科在籍、「dr/op」(尾道/2016)、パラミツオレンジ(横浜/2016)。
- 津川奈菜 | 2015年 尾道市立大学大学院 美術学研究科油画コース 修了、シェル美術賞入選(2014、2015)、黄金町アザール2016。
- 中尾慶一郎 | 1987年広島生まれ。2010年名古屋芸術大学美術学部卒業。個展トキョウワンダーウォール都庁2016。
- 原仲裕三 | 1982年東京造形大学絵画専攻卒業。ファール立川次世代アート最優秀賞受賞(東京/2007)、広島県文化奨励賞受賞(2007)、「トリニティからヒロシマへ」(旧日本銀行広島支店/2015)。



8 吉野美亜 Mia TOMANO

9月に中之条ビエンナーレで上演する新作のクリエーション及び身体表現の新たな可能性の研究、ワークショップを行う。ワークショップでは、音楽とダンスの関係性に着目し、毎回テーマを設定して音楽家と共に相互間の影響を記録しながら継続的に実施する。

□兵庫県芦屋市出身。横浜在住。4才よりクラシックバレエを始める。95年、山本禮子バレエ団附属研究所に入所。常磐高等学校バレエ科卒業後、山本禮子バレエ団に入団。02年、NBA 全国バレエコンクール第2位受賞。07年中村恩恵主宰「Dance Sanga」にて活動。14年、横浜市テアトルフォンテ・アズビル・アワード受賞。現在、フリーランスとして舞踊家・振付家として全国で活動を展開している。芦屋大学経営教育学部バレエコース非常勤講師。



9 中村恩恵 Megumi NAKAMURA

2017年の秋に発表する新作「7つの短編」の創作準備を進めます。新作のために新しい表現の可能性を模索するのと平行して、これまでの活動のアーカイブの作成を行います。かつ、今後の人材育成事業に繋げて行く為に創作技法の明文化と、即興及び身体トレーニングの実践とメソッド化に取り組みます。

□1988年ローザンヌ国際バレエコンクールにて受賞後渡欧。キリアン率いるネザーランド・ダンス・シアターにて活躍の後、オランダを拠点に振付活動を展開。2007年に日本へ活動の拠点を移す。新国立バレエ団、Noism、K バレエカンパニー等に作品を提供。新国立劇場やKAATにて「Shakespeare THE SONNETS」[小さな家][White Room][ハムレット]等を発表。また、キリアン作品のコーチとしてパリオペラ座をはじめ世界各地のバレエ団や学校の指導にあたる。芸術選奨文部科学大臣賞、横浜文化賞等の受賞歴を持つ。



2B Gallery

10 間瀬拓人 Tacto MASE

今回横浜では、インスタレーション「O窓(ENSO)」とコラボレーションによるパフォーマンスアート・シリーズの新たな展開として、プロジェクト実行委員会において企画運営し公演を行います。並行して、丸くデフォルメした針金のハンガーを様々な形で用いる「cyrcl project」を2つほど仕掛けるつもりです。



11 高井啓光 Hiromitsu TAKAI

世界最後の秘境の地といわれるパプアニューギニア・セビック河奥地で原住民と一ヶ月生活し体感した、ジャングルで行われる精霊仮面儀式や完全自給自足ですごす彼らの生活身体感覚やワニを先祖と信じる信仰など。これらを身体学、人類学、民俗学の視点から検証し作品を制作します。

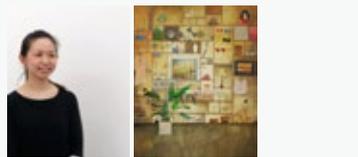
□10代頃の頃にパンク調に目覚め表現活動を開始。パンクやメタルなどのマイノリティーカルチャーの新しい可能性を追求するなか、日本古来の反骨芸能である天狗神楽と出会い、天狗が伝承されたとい説のある400年前の忍術も学び取り入れオリジナルパフォーマンスを作りあげる。国内外で活動。



12 陳亭君 Ting-Chun CHEN

アクリルと油彩の平面作品に取り組む。私は部屋や家など、人々の身近で個人的な生活空間を題材にしてきた。それは自然とその人の趣味や個性、文化や宗教を反映する。空間や人生の瞬間に着目し制作することは、身近なものの配置や積み重なった形との関係を反映し、物語を作り上げるための無作為なスナップ写真のようである。

□1986年台湾台北生まれ。2011年UCL, The Slade School of Fine Art MFA 絵画先攻修了。物語性のある空間、ものの配置、動きや静けさに興味を持ち、制作している。これまでアメリカ、オーストラリア、日本でのレジデンスに参加。現在は横浜を拠点に活動している。



13 尾山久之助 Hisanosuke OYAMA

オープンスタジオまでの完成を目指して、発泡スチロールを主な素材とした立体作品を制作します。作業中、細かいゴミや熱線で切断する際多少臭いがあります。なるべく気を付けますがご容赦ください。色々な分野の方々の活動から刺激を受け多く学びたいです。

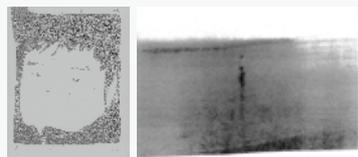
□1953年神奈川県生まれ。1977年武蔵野美術大学バリエ受賞。渡仏1978年まで。1980年〜2013年相模原市公立中学校教諭。2016年 SUPER OPEN STUDIO(相模原)。



14 東地雄一郎 Yuichiro HIGASHIJI

人の中の無意識を意識化(顕在化)させ気付きを与えることを試みる。漠然とした「あたりまえ」への考察と写真というメディアによって表層をなぞる方法を模索し、「気づき」という言葉の意味を紐解き記録することを主題としている。1枚の写真を2000回コピーした結果に、量子力学の考え方を取り入れ制作する。

□1983年愛知県生まれ。2015 NTMY Issue.3掲載 / 2016 KYOTOGRAPHIE International Portfolio Review「The jury selected following photographer 選出 / 2016 Einstein photo studio「New Japanese Photography」 / 2017 個展「みんなしてる。だれもしらない。」(予定) / Phases magazine week45-2015に掲載。





BankART Studio NYK
3F

21 坂間真実 Mami SAKAMA

家族、自分、古い家、夜、台所、など日常生活の中にある恐怖や暗がりテーマにした作品を制作。レジデンスでは、普段とは違う広い空間を活用し、テーマに沿ったモチーフを写真や映像でコーディネートした制作を考えています。

□東京藝術大学大学院先端芸術表現専攻修了。「mother」出品(gallery fu、横浜/2016)。「BankART AIR 2015」(横浜/2015)、「10 minutes motion」出品(3331 Arts Chiyoda、東京/2014)。「comet」(gallery fu、横浜/2014)、「第87回装苑賞ファイナリストファッションショー(遠藤記念ホール、東京/2013)」、「第15回岡本太郎現代芸術賞展(川崎市岡本太郎美術館、神奈川/2012)。



25 山田哲平 Teppei YAMADA

近年、地域や住民のリサーチをもとに、自然の音や心臓の音などを使ったサウンドインスタレーションを制作。また、他者の価値観を開示するアプローチの制作も同時に行う。BankARTでは、鼓動を可視、触覚化する作品の新作の制作と、7月からレジデンスする台湾国際芸術村で制作する作品のプランニングや、準備を進めます。

□1979年東京渋谷に生まれる。広島市立大学芸術学研究科博士前期課程修了。主な展示:「ナラティブのナラティブ アートのアート#2」(渋谷ヒカリエ Cube123/東京/2017)、「Art Album 2016 Existence」(藤沢アートスペース/神奈川/2016)、「trans_2015-2016」(秋吉台国際芸術村/山口/2016)。主なレジデンス歴:藤沢アートスペース(神奈川)、秋吉台国際芸術村(山口)。

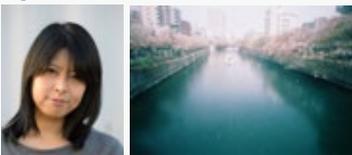


15 秋山直子 Naoko AKIYAMA

紙製の小さなピンホールカメラで、カラーネガフィルムを使った撮影を続けています。昨年は大岡川を源流まで辿りながら、全ての橋の上から見える風景を撮影しました。今年はさらに発展させ、映像作品やインスタレーション、写真集などへの展開を探ります。街を繋ぐ「橋」の存在について、作品を通して改めて考えてみたいと思います

□京都生まれ。14〜19歳をオランダで過ごす。編集者、グラフィックデザイナーを経て、2009年より写真家・元田敏三氏に師事。写真を用いた作品制作を行っている。2013年「針穴写真展」と題した個展シリーズを始める。2011年から現在まで「黄金町 Artist In Residence Program」参加中。

<https://www.facebook.com/nao.event/>



16 久保萌菜 Moena KUBO

日常の些細なことから着想を得たかたちを「型」にし、数十種類の型を組み合わせて、少しずつ重ねていき、風景のような油彩を描いている。今回は鑑賞者も制作に参加できる作品をつくりたいと思い、絵を地図に見立てて、座標をくじで決め描き進めていく実験的な絵画を制作する。

□2010年多摩美術大学大学院修了。2017年3月まで黄金町に長期レジデンス。「黄金町ガザール2016」では参加者と共に壁画制作を行った。主な展示に、「若い風」(大平荘スタジオ/2017)、「黄金町通路:成果」(高架下スタジオ ギャラリー site-A/2015)、「シエル美術賞」(代官山ヒルサイドフォーラム/2007)など。



17 ガブリエラ・マンガノ & シルヴァーナ・マンガノ

Giabella MANGANO & Silvana MANGANO
今回の滞在では、舞踏の社会的、政治的適合性及び写真との関係性を研究したいと考えています。私たちは毎日のニュースに掲載されている、とるにたらないイメージに興味を持ちますが、それは舞踏のイメージの中にも同様に見いだせるものです。舞踏の粗雑さと身体性を利用して、ニュース画像を刷新し、現在のグローバルな状況を迅速に読みこんでいきます。そして、女性の身体の役割とその表現方法を追求していきます。

□1972年スタンソープ(オーストラリア)生まれ、メルボルン(オーストラリア)在住。一卵性双生児の姉妹の協同により活動。2000年代半ばより、身体像や動き、風景を考察する数々の映像インスタレーションを発表。

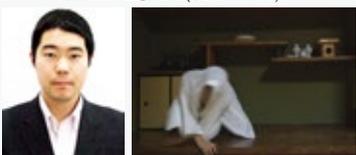


3A Gallery

18 三田村龍伸 Ryuji MITAMURA

6月18日(日)に海老名ジ・インディーズ映画祭を開催する。このイベントの作品審査、およびイベントの構築、チラシの作成。その他広報活動。またオープニングアウトで使われる映画作品の制作を行いたい。また、出来れば横浜で出会ったアーティストの繋がりを大事にし、コラボレーションなども行いたい。

□1980年神奈川県生まれ。日本大学大学院芸術学研究科芸術専攻修士後期課程修了。江古田ユニバーズおよび海老名ジ・インディーズ映画祭ディレクター。2010〜11、15〜16のBankART AIR、2012〜14、ハンマーヘッドスタジオAIRに参加。2006年〜ネットラジオ「FM龍伸堂」開局(現在11年目)。



19 関川航平 Kohei SEKIGAWA

現在の作品制作は、大きく分類するとパフォーマンスとドローイングの2方向があり、どちらも並行して続けていこうと考えています。5月上旬に新作パフォーマンスを発表する機会があるので、スタジオをその発表に向けた実験場所として活用したいと思います。自身の制作とともに、作家同士のネットワークを活かしてイベントを企画できれば良いと考えています。

□1990年宮城県生まれ。2013年筑波大学芸術専門学校特別カリキュラム版画コース卒業。2016年「第14回グラフィック1_WALL」「あざみ野コンテンポラリーvol.7 悪い予感のかけられない展」、2017年「一枚の絵の力 Power of a painting」BLOCK HOUSE。



20 牛島智子 Tomoko USHIJIMA

さゆうドリ 岡崎さんにオープンコール逆さドリを作っていく。胴体を軽く閉じられた空間にしてそこを出入りしながら、岡崎さんの展覧会の構想ドローイング、岡崎ゼミ資料、衣服などで左右の羽を見立てていく。左右に振りながらこぼれていくもの膨らんでいくものを見た。

□1958年福岡県八女市生まれ。九州産業大学芸術学部美術学科卒業後、Bゼミスクール入所を転機に神奈川県に17年在住1997年八女に居をもち、現在に至る。1980年よりグループ展、個展等でインスタレーション、変形キャンパスの作品を多く発表してきた。2010BankART AIRに参加し和紙にコンニャク糊を塗布した紙衣紙を使った作品など制作している。



22 石花会 Ishi-Hana Club

平日の活動は新たな作品制作のほか、オープンスタジオ時に販売できる入門キットの制作もおこないます。また各種SNSに# BankART1929のハッシュタグをつけ投稿し、施設広報にも寄りたいと思います。期間中、随時1F カフェなどを使いワークショップを開催する予定です。ハッシュタグ#BankART1929 #rockbalancing #石花 #ロックバランシング

□「かねぎ」「サクサク」「いっせい」を中心に活動します。週末はNHK BS「美の壺」に取り上げられた「石花ちとく」のほか渋谷石花会主催の「とかん」も参加します



23 藤浪美世 Miyo FUJINAMI

インターネットや著書の中で見つけられる過去に実際にあった手紙をもとに、新たな文章「ラブレター」を制作し、絵を描こうと思っています。涙がこぼれ落ちるような生感覚、その濃度を絵や文章に置き換える。「だれかに宛てられたこの手紙」は大量印刷し、バンクアートに見に来た方々に「だれかがあられる場所」へ貼り付けてきてもらう。

□1990年北海道生まれ。2015年武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業。個展「新世代への視点2015 藤浪 美世展」(コパヤシ画廊、銀座)



24 堀江和真 Kazuma HORIE

A4サイズ程度の板を10枚から15枚、壁に配置し、期間中ポर्टレイトを制作します。対象となる人物をとくに設けず、普段持ち歩いているメモ帳などに描いたらくがきを元にする予定です。描く、彫る、貼るなどの行為、画面に使った素材の使い分けなどを意識的に行うことで作家が絵画と過ごした時間や行為を鑑賞する人に想像できるような作品づくりをしていきたいと考えています。

□1981年東京都生まれ。現在神奈川県相模原市に在中。市内にある共同スタジオ「アリエボイス」に制作の拠点を置いています。2013年から自宅で子ども絵画造形教室「アリエくま」をオープンし、子どもたちに絵画や造形の楽しさを伝えながら、作家活動をつづけています。



26 ジェシカ・フ Jessica FU

BankART Studio NYKのロフト空間への建築的、歴史的の両方を学ぶことに興味があります。この建物と社会と関係しているテーマをサイトスペシフィックアートのプロジェクト映像インスタレーションを制作する予定です。テーマは、個人的や集合的メモリ、メディア文化と現実、個人とコミュニティです。

□カナダ・トロント生まれ。2015年シカゴ美術館附属美術大学を修了。作品制作において、素材のはかなさに注目している。彼女の体験型のインスタレーションでは、光や影、プロジェクトといった素材を用いて描画することを試みる。ドローイング、写真、インスタレーションなどの手法を扱う。



27 丸山純子 Junko MARYAMA

バンクアートの空間で「無音花」を見つめなおし、夏の展示に向けての作業を始めた。

□ニューヨーク市立大学ハンターカレッジ美術学科学卒。国内外問わず様々なアートプロジェクトに参加。代表作に、レジ袋を使った「無音花畑」がある。主に、身近にある物を収集し手を加えることで意味を変化させ、インスタレーションによって場を変える作品を展開する造形作家。

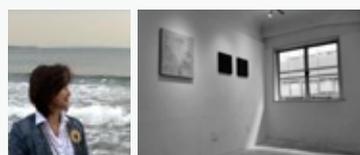


3B Gallery

28 齊藤芳子 Yoshiko SAITO

「書」から表現思考が立ち上がっています。制作のコンセプトは「自立」そして「共生」をテーマにしています。共生関係をつくるための自立性。「position」「Roots」シリーズ(自立性)とつながりて展開しており墨をベースに画仙紙(和紙)に半ドーナツをかけ、浸透する時間と堆積させる時間。その応答をみつめています。

□1986年 日本書道専門学校卒業。2007年 早見芸術学園日本画専攻卒業。おもな個展に、「齊藤芳子展」(ギャラリー214葉/東京/2008)、「Position No position 2014」(表参道画廊/東京/2014)、「Roots2016-系」(Galleryカメラ/東京/2016)、「Roots2017-花hana」(Galleryカメラ/東京/2017)。「Prospect Art 2015」(Ashok Jain gallery/NY/2015-16)、「ギャラリーへ行く2016」(数寄和ギャラリー/東京/2016)。



29 吉田ゆう Yu YOSHIDA

サメが運河を泳ぐ景色をシミュレーション。横浜は昔入海があり、言わば海の中にあった。現在は埋め立てられ観光地化された街。大岡川は海水と淡水の入り交じる運河である。元々海だった観光地区に流れる運河へサメが泳いでくる可能性はゼロではない。運河にサメが出現した目撃情報を設定、追跡、検証。周辺環境のリサーチ。

□1986神奈川県生まれ 2010女子美術大学大学院美術専攻修了 展覧:2016吉田ゆう「生きる時間」 BUKATSUDOGALLERY グループ展:2016第2回京都版画トリエンナーレ2016 京都市美術館2015「廻り道」展 ArtsChiyoda3331 2014雲林國際現代美術交流展 台湾雲林縣政府文化處陳列館。



30 Conversation Space

カンパセーション・スペース

社会や自身が直接関わる人々との対話を作品を通して行い、ビジュアルカンパセーションを構築する。

□橋村至星 | 画家。NY 大学大学院修士課程修了。 Gallery Side2, Gallery Lara Tokyo, Launch Pad Gallery で個展、グループ展国内外多数。

□リュウリン | 版画家。横浜出身。米国サンフランシスコに18年間居住後、横浜へ再移住。2014年5月より横浜・石川町にて LAUNCH PAD GALLERY を運営し活動拠点を置く。

□フレッド パワーベン | ビジュアルアーティスト。米国出身。2011年に横浜に移住。 LAUNCH PAD GALLERY を運営。現在、人類への脅威について意識を高める方法を探索している。



31 安部治子+関直子+阿部剛士

Haruko ABE+Naoko SEKI+Tsuyoshi ABE

個々の制作活動から、何に注意を払って制作しているかを確認した時、自己検閲がかかっている事が共通点だった。表現をしているが、規制しているものは何か、3人で議論し、各自が自己検閲に挑戦し、各々の制作につなげる。

□安部治子 | 主な展示作品として、キャパ嬢に絵を描かせるパフォーマンス作品や、SNSのお見合いサイトで出会った人の生い立ちを撮影するなど。美術の共通言語を持たない人達を通し、自らの人間関係の出会いから起こる出来事を題材に制作。今回は、自己中心的な制作に挑戦する。

□関直子 | 日常の中で見落としそうなモノや、ある違和感、差異を写真や墨絵で表現、制作している。

□阿部剛士 | 建設技術者 美術家。技術者を軸足に、廃材や工業製品を取り入れた、「模倣[みたく]」の手法で製作。



32 岩村寛人 Kanto IWAMURA

①以前より実践している平面的な表現方法を立体に応用する為の研究。②「1」の研究の為の立体物のデザイン、作成(主にコンクリートと木を表現の素材とし、デジタル・アナログの技術を混合し制作する)。③デジタルプロトタイプング研究者との共同制作、プレゼンテーション

□ロンドンでは AASchool で建築を学び、その後世界各地で建築デザインの実務を経験。一方、「A_Maze」と名付けたグラフィック手法を発案し、絵師としての活動を始める。近年は、メキシコでコンクリート彫刻の学校「AAVS Las Pozas」を主宰しながら、空間・立体・平面の媒体をクロスオーバーする作家活動を、メキシコシティと東京で展開している。



33 VIX ヴィックス

過去の作品を展示し空間演出の考察を深める。2ヶ月という時間をかけて空間を作り込む感覚で、普段の作品展示/撤収では出来ないレベルでの制作をことごとくやり抜いてみたいと思います。

□本名: 太田光喜。1975年生まれ。幼少より独学で制作。スケートボード、クラブ等のストリートカルチャーを背景に活動。独特の幻想的世界観はPOPと畏怖の両面性を持つ。ライブイベントのイベント出演歴20年。様々なコラボレーションを積極的に行い、adidas、Audi、Calvin Klein等の企業にも作品を提供。



34 リン・チャーチル

Lyn CHURCHILL

アートは共同作業であり、コミュニケーションだと思ふ。しかしつねに孤独な冒険だとも思っている。滞在期間中、これまでの自分のスタジオでの仕事を淡々とまた即興的に継続すると共に、紙の舞台美術、或いは「紙の茶室」を作ること考えている。ほかに、英文添削とか、海外のお客様の案内とかも買って出ます。どうぞお声がけ下さい。

□1944年パーミンガム(アラバマ州)で生まれる。ウエルズリー大学(マサチューセッツ)で美術と物理学を、テュレーン大学(ニューオクス)で美術、実験演劇を学ぶ。70年代、レイク・エリー大学(オハイオ)で非常勤講師。2002年より日本在住。紙と土を素材とする作品制作を行う。また、テコンドーとのコラボレーションでパフォーマンス作品を制作する。



35 屋敷妙子 Taeko YASHIKI

6月に行うグループ展のための作品2点と2017年1月〜2月個展のために制作した「記憶の森」のコレクションの平面作品を、立体作品にしてみたいです。素材その他未知数な事をクリアにしながら、50立方センチメートル位の試作品を制作する。できれば100号位の平面も制作したいです。

□米国エルカミナレッジ、カリフォルニア州立大学にてファインアート修学。個展(ギャラリー椿・GT2/馬喰町 ART+EAT)、アートフェア(シンガポール/台北/韓国/NY)、新潟日報連載挿絵(2011年8月〜2012年3月/2015年4月〜2016年3月)。装幀(岩波書店/港の人/羽鳥書店/せりか書房)、その他グループ展多数・横浜市在住。

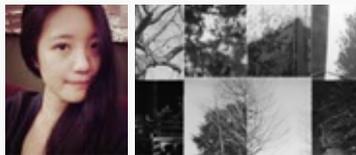


3C Gallery

36 林佳文 Chiawen LIN

台湾と日本に跨がる私の家族の物語を掘り下げるものです。まずは、祖父の日本での軌跡のイメージ、彼らの体験と2年前に来日した孫(私自身)とを結びつけるイメージから始めます。加えて、連続と続く家族と命を暗示するものとして、多くの木のコレクション画像を用い、個人的な所有物、そして白黒写真で構成します。

□台湾生まれ、台湾育ち。チェコ共和国国立芸術アカデミー映像学部(プラハ)写真コース修了。主にアナログカメラを使い、従来のプリント技術を用いた作品を制作。イメージクリエーション(画像創作)と個人的な記憶との関係がテーマであり、言語を学んだバックグラウンドも制作に大きな影響を与えている。



37 ライトハウス Lighthouse

BankART StudioNYK あるいはハンマーヘッドスタジオ(2012〜'14年横浜・新港埠頭)の Artist In Residence に参加したアーティスト6名によるグループで、馬車道駅近くの宇徳ビル・ヨソカイにシェアスタジオを構えています。グループ名は港横浜の灯台(Lighthouse)をイメージし、アートで灯を点そうとの意気込みで集まりました。

(参加メンバー)岩間正明/SUZUKIMI/寺田忍/中川彦彦/三浦かおり/渡邊聖子



38 中川沙綾香 Sayaka NAKAGAWA

内的精神を明暗のトーンに融合した独特の色彩表現で、主に油彩画と、紙にアクリル絵具やクレヨン等を用いた制作を行う。新作を展示します。昨年3ヶ月間のニューヨーク滞在制作により、具象画から抽象へと変化してきたので、更に独自の世界観で抽象表現を追求する。そして来年のニューヨークでの展示に向けた制作にしたい。

□画家。1997年〜フランスに14年間、ハワイ島で1年半。2013年帰国横浜在住。パリの美術学校を日本人初最優秀賞で卒業。フランス芸術家協会に承認されアーティストビザ取得。サロンドートヌに会長招待出展。香川県立ミュージアムで特別展。日仏各地で個展と受賞。銀座ミーツギャラリーで個展開催(5/10〜5/21)

www.sayaka-nakagawa.com



39 鈴木紗也香 Sayaka SUZUKI

私は部屋の中の風景を窓や鏡、画面画によって入れ子状になっている絵画を描いています。この BankART Studio は多くのアーティストが素晴らしい作品を生み出していく場所だと思います。作品が生まれる場所、いくつもの世界が交差する「アトリエ」という場所をテーマに絵画制作をしたいと思っています。

□1988年ロンドン生まれ。2014年多摩美術大学大学院修士課程修了。神奈川県在住。室内風景を軸に内と外が入れ子状になっている様子をテーマに絵画作品を制作している。主な個展に「SHINE」(第一生命南ギャラリー/東京/2016)、「ARKO」(大原美術館/岡山/2015)などがある。海外派遣や芸術祭にも参加経験があり、意欲的に発表している。



40 中村厚子 Atsuko NAKAMURA

不在の存在をテーマに、街で拾ってきた落とし物をワックスで型取るなどして、実験的新作の制作に取り組む。物に染み付いた所有者の“クセ”を抽出すると共に、物が持つ空気や記憶、物を与える感情も含めて、いかに表現するかを模索する。

□2005年武蔵野美術大学造形学部建築学科卒業、2011年UCL, The Slade School of Fine Art, MFA 彫刻専攻修了。日常において視覚では捉えられないが、感じられるエネルギーに着目し、特に塩や流木などの自然素材を使ったインスタレーションや映像作品を制作。2015年金沢アートグミ6周年記念個展「意識と無意識の境界」など、国内外で制作発表を行っている。



41 studio ChingDong

スタジオチンドン

①市街地区風景へ連なる建物、正面と正面の間に「N 次元の扉」を挿入するシリーズ作品のロケハン及び製作の拠点。②「going to A shirt」不特定多数の人の身体を探す。その寸法の平均値で一枚のシャツを作る。それだけではつまらない! 寸法収集ならびに試行錯誤のご協力を請う公開の場。studiochingdong.com

□映画美術屋であった父親の仕事に子供の頃より接する。(株)彩美 ※現(有)パノラマ・(有)タイプンスタジオにて造形業に携わり美術という技術を養う。(株)彩美倒産を機に知人の勧めで作品製作を始める。2013年よりスタジオチンドンとして活動、美術屋として「美術」による「芸能」活動を目指す。



42 蓮輪友子 Tomoko HASUWA

映画のスクリーン大の平面作品を制作し、映像作品を投影します。オープンスタジオの機会として作品を上映します。小さな作品では平面作品をフィルムのコマやアニメのセルに見立てて連なるように制作します。また、滞在期間前にはこれまでの制作活動で出会った作家の作品を紹介します。

□大阪生まれ東京都在住。2006年京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻油画修了。主な個展に「LIGHT」(gallery 福果/東京/2017)、「LIGHT」(XPO/Enschede/2016)、「PARALLEL」(YIRI ARTS/台北/2016)、「EL DORADO」(Quinta del sordo/Madrid/2014)。グループ展に、「Take a chill pill」(La farmacia/Madrid/2014)、「群馬青年ビエンナーレ2012」(群馬県立近代美術館/群馬/2012)。



43 今裕子 Hiroko KON

絵画のような立体作品を、深く浅く少しでも表現する事が可能であればと思っています。大きな空間を使用できることが日々の中にはないので、自分にとって価値のある72日間となる事を望んでいます。

□2016年9月2人展「装」かみむらみどり・こんひろこ、BankARTAIR2015〜2016。1984年4月札幌大谷短期大学美術科デザイン卒業。



年間レジデントアーティスト

松本秋則 1F
Akinori MATSUMOTO



高杉嗟知 2F
Sachi TAKASUGI



開発好明 3F
Yoshiaki KAIHATSU

